日本口腔顔面痛学会 News Letter No.63

（2023 年 9 月 11 日発行）

日本口腔顔面痛学会　理事長　松香芳三
広報委員会委員長　伊藤幹子

今回は，7 月 6 日~31 日に行われた口腔顔面痛ベーシック WEB セミナー2023 について川崎市立井田病院歯科口腔外科の力武七瀬先生に報告していただきます．

口腔顔面痛ベーシック WEB セミナー2023 参加報告

川崎市立井田病院　歯科口腔外科　力武七瀬

今年度の口腔顔面痛ベーシックセミナーは昨年に引き続き WEB 上での開催となった．ベーシックセミナーは口腔顔面痛の入門編となっており，基本的知識の確認から臨床への応用の仕方まで，最初から最後まで通して講義を聞くことで順序立てて基礎を身につけていけるプログラムになっていた．また，一コマ 15 分にまとめられた講義はオンラインでも集中力を保ちやすく，時には見返して知識を整理しながら学習できる点も良かった．

今回のセミナーを受けて，口腔顔面痛の知識を正しく身につけた歯科医師が増えることで不必要な歯科治療を減らすことができ，時には患者の命を左右する疾患の早期治療に繋がることはもっと周知されるべきだと感じた．ベーシックセミナーでは口腔顔面痛の基本的な知識を整理でき，口腔顔面痛学に興味を持ち始めた人だけでなく，常に口腔顔面の痛みと向き合う全ての歯科医師にとって必聴の内容になっていた．

印象に残った講義スライドと共に概要を報告させていただき，今後参加を検討される先生の役に立つことを願う．

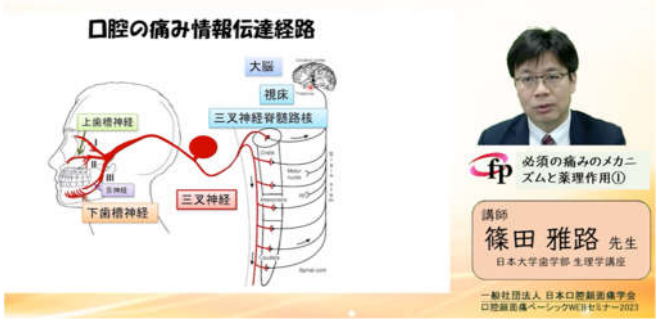
・口腔顔面痛学の概念と痛みの医療面接　（講師：野間昇先生・小笹佳奈先生）

最初に，野間昇先生（日本大学歯学部口腔内科学講座）より“口腔顔面痛を学ぶことは面白い！”というテーマで口腔顔面痛学を学ぶ必要性についてお話ししていただいた．歯の痛みを目の前にしたとき，歯原性歯痛以外を考慮できているか？抜髄・抜歯をすれば痛みは消失すると考えていないか？という問いは日頃の臨床の向き合い方に刺さるものがあった．非歯原性歯痛の概略と具体的な症例を提示していただき，脳腫瘍による二次性三叉神経痛や巨細胞性動脈炎による歯痛など，一括りに歯の痛みといっても診断が遅れることが致命的となる症例があることが示された．

後半では小笹佳奈先生（日本大学歯学部口腔内科学講座）より口腔顔面痛患者の治療の流れを示すとともに，医療面接で必要な情報を収集することの重要性が解説された．口腔顔面痛患者の場合は経緯や症状が複雑

なことも多く，痛みの構造化問診を活用することで患者も医療者も症状を整理することができ，正しい診断と適切な治療につながることを理解できた．

・必須の痛みのメカニズムと薬理作用（講師：篠田雅路先生）

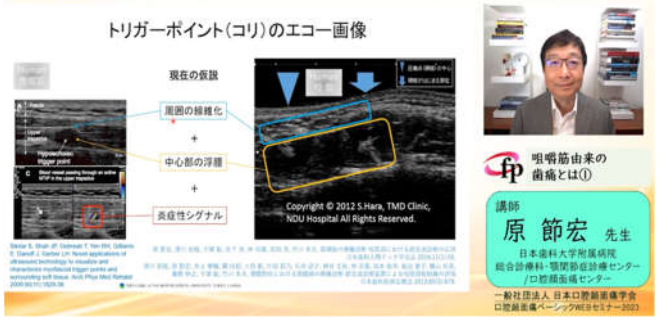


篠田雅路先生（日本大学歯学部生理学講座）の講義では，痛みについて生理学的な視点で解説していただいた．侵害受容性疼痛・神経障害性疼痛・痛覚変調性疼痛についてメカニズムが解説されるとともに，臨床で使っている薬剤がどのように作用しているか示された．学生の頃，生理学や薬理学などで各々学んできたことを総合的に学習することで知識が統合され，より実践的な知識として整理することができた．

・痛みのメカニズムに基づいた薬物療法の実際（講師：桑島梓先生）

桑島梓先生（日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座）の講義では，薬物療法にフォーカスし，症例の診断・治療の流れに沿ってお話ししていただいた．実際に自分が診断・処方をしているような感覚で聞くことができ，実践的な知識と感覚が身につくように感じた．先生が実際に行っている診断方法について身振り手振りを交えて解説していただき，動画で視聴する醍醐味を感じられた．

・咀嚼筋由来の歯痛とは　（講師：原節宏先生）



筋・筋膜性歯痛ついて，原節弘先生（日本歯科大学附属病院総合診療科・顎関節症診療センター/口腔顔面痛センター）より，特徴や診断のポイントなど様々な角度から解説をしていただいた．遭遇することの多い疾患であり，過った治療を行わないためにも必ず押さえておきたい知識である．今回の講義では，トリガーポイントをエコー画像で視覚的に解説していただき，疼痛が生じるイメージが沸きやすくなった．今後具体的な疼痛のメカニズムが明らかになることを楽しみに待ちたい．

・歯科で生じる神経障害性疼痛　（講師：岡田明子先生）

岡田明子先生（日本大学歯学部口腔内科学講座）より，神経障害性疼痛について具体的な症例を示しながら解説をしていただいた．神経障害性疼痛の治療薬は副作用に注意が必要なものが多く，難しい印象があったが，講義では治療のアルゴリズムを示していただき，非常に分かりやすく理解できた．また，神経障害性疼痛の痛みの性質について傾向と特徴を図示していただき，イメージで捉えやすくなるとともに今後の診断にも役立てやすい解説であった．

・口腔顔面痛における認知行動療法（講師：渡邉友希先生・土井充先生）

前半では，渡邉友希先生（昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座顎関節症治療学部門）より，口腔顔面痛患者に対して心理的介入を行う上で，医療面接を通して患者と良好な関係を構築することが重要であることについて解説していただいた．具体的な医療面接のテクニックとして受容・傾聴・共感が挙げられ，特に認知行動療法が有効となる慢性痛をはじめ，今後の臨床でも活用していきたいと思った．

さらに後半では，土井充先生（広島大学大学院医系科学研究科歯科麻酔学研究室）より，認知行動療法による具体的なアプローチ方法について解説していただいた．急性期の段階から痛みの症状が長期化する可能性も視野に入れ，時には立ち止まり，時間をかけて患者と医療者の間で目標を共有した上で治療を進めていく必要があると感じ，日々の診療を反省する良い機会となった．

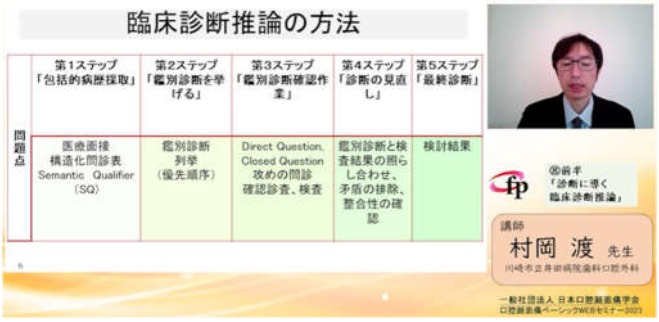
・歯科で役立つ頭痛の知識　（講師：臼田頌先生）

臼田頌先生（慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室）の講義は，緊張型頭痛と顎関節症に起因する頭痛はオーバーラップしており，歯科医師として正しく顎関節症を鑑別・診断する必要があることを再確認できる内容であった．また原因不明の歯痛に遭遇した時，専門医へ紹介する必要のある頭痛を伴っている場合があり，最低限押さえておきたい頭痛の知識について解説していただいた．

TACs は歯痛を伴うことがあり，ぜひ押さえたい疾患だが，臨床で触れる機会が稀であり覚えにくい印象があった．講義では“自律神経症状を伴う長めの三叉神経痛”と解説があり，病態のイメージを捉えやすくなった．

・診断に導く臨床診断推論、臨床診断推論症例デモと症例体験　（講師：村岡渡先生）

村岡渡先生（川崎市立井田病院歯科口腔外科）より，非歯原性歯痛は一発診断が通用しづらく，鑑別診断において臨床診断推論が推奨されており，その方法について解説していただいた．後半では実際の症例に沿って，各ステップの進め方を例示していただき，明日の臨床にも生かしやすい解説であった．



コロナ前はベーシックセミナー当日に臨床診断推論の簡単な症例デモを受講者とともに行われていたとのことだが，今年のベーシックセミナーは web 開催につき基本的に視聴のみとなった．9 月 3 日に口腔顔面痛臨床推論実習セミナーが予定されており，より実践的な学びを得るためにも是非参加したいところである．

【力武七瀬先生のプロフィール】

【略歴】

2021 年 3 月　東京歯科大学　卒業

2021 年 4 月　慶應義塾大学医学部　歯科・口腔外科学教室　入局

2023 年 4 月　川崎市立井田病院　歯科口腔外科　出向

――――――――――――――――――――――――――――――――

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033　東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960　E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp